



# 美しい 県土づくりNEWS

2020年  
4月

岩手県 県土整備部  
手づくり広報誌第189号  
令和2年4月30日発行  
編集 県土整備企画室

## 目次

- 2 令和2年度 県土整備部のミッション
- 2 全国からの応援職員と共に復旧・復興に取り組みます
- 3 令和2年度 県土整備部の幹部職員
- 4 「大沢～浜川目」工区が全線開通しました！
- 6 「島バイパス」が開通しました！
- 8 岩手県内の復興道路の開通見通し～今年度全線開通予定～
- 9 道の駅「はなまき西南」に登録証が伝達されました！
- 10 住民団体等への草刈り業務委託制度の紹介
- 11 いわたの川と海岸ボランティア活動支援制度のお知らせ
- 12 洪水から守ろうみんなの地域！～5月は水防月間です～



## 令和2年度県土整備部 新体制でスタート ～キーワードは「つなぐ」～

令和2年度の県土整備部は、中平部長のもと、全国から派遣された18名の応援職員と29名の新採用職員を加えた総勢785名の新しい体制でスタートしました。

今年度は、「我が県土 支え育む 希望郷 『つなぐ』」を組織のキャッチフレーズとし、

- 復興の総仕上げに向けこれまでの成果を「つなぐ」
- 未来の県土づくりに「つなぐ」
- 復興で培ったレガシーを次の世代に「つなぐ」

に取り組んでいきます。



今年度の県土整備部幹部職員  
左から、田中道路都市担当技監、佐々木河川港湾担当技監、中平県土整備部長、坊良副部長兼県土整備企画室長

# 令和2年度 県土整備部のミッション

今年度は、次の3点を部の主なミッションとして業務に取り組みます。

1. 東日本大震災からの復旧、復興インフラ整備の推進
2. 平成28年台風第10号及び令和元年台風第19号災害からの復旧事業等の推進
3. 物流・産業振興や安全・安心な暮らしを支える良質な社会資本施設の整備と管理

これらのミッションを遂行するためには、工事の適切な進行管理や事前のリスク管理、より効果的で効率的な社会資本の整備と維持管理、地域の建設業の担い手確保、社会資本についての情報発信といった取組が重要です。

災害からの早期復旧・復興、良質な社会資本の提供に向け、県土整備部職員一丸となって取り組んでいきます。

## 全国からの応援職員と共に復旧・復興に取り組みます

東日本大震災津波からの復興、令和元年台風第19号からの復旧に当たっては、東北地方から九州地方まで、全国の自治体から継続的な人的支援をいただいています。

4月1日に行った県土整備部の辞令交付式では、本庁に勤務いただく応援職員に対し、中平県土整備部長から辞令を交付し激励の言葉を述べました。応援職員からは、都市計画課配属の坂東技師（東京都派遣）が代表して、復興への力強い決意を述べました。

応援職員の皆さんは、本庁、広域振興局土木部等に配属され、復興道路等の整備、海岸保全施設の復旧等の県の復興関連業務、台風第19号災害に係る用地補償業務を支援していただきます。



中平県土整備部長から派遣応援職員への辞令交付  
(令和2年度は、青森県、群馬県、東京都、神奈川県、山梨県、静岡県、愛知県、福岡県から18名の派遣をいただいています。)

## 令和2年度 県土整備部の幹部職員

### 県土整備部長 中平 善伸 (なかひら よしのぶ)



生まれ育ったふるさとのための仕事ができるとは、なんと幸せなことでしょうか。県土整備部において皆さんと一緒に復興・復旧等の仕事をしてきた中で、私が年を取ったのか、私が生まれ故郷で仕事をした経験がないのか、こんな幸せ願望を抱いております。あ〜〜羨ましい。

今年は、東日本大震災津波10年目の節目。これまでの組織が積み重ねてきた成果を踏まえ、この1年でやり切ること、見通しをつけることを明確にして、未来につなげていきましょう。

(出身地：兵庫県西宮市、出生地：高知県梶原(ゆすはら)町)

### 副部長兼県土整備企画室長 坊良 英樹 (ぼうら ひでき)



県土整備部勤務は25年ぶりとなります。当時、土木事務所対抗野球大会など楽しく過ごしたメンバーと再会し、懐かしく思い、戸惑いなく業務に馴染めそうです。

今年は、復興創生期間最終年、復興事業の総仕上げに向けて、ラストスパートの年です。年度末からの新型コロナウイルスにより事業実施に様々な影響が懸念されますが、部内の皆さんと知恵を出し合いながら乗り越え、未来の県土づくりに事務方としてサポートできればと思います。

「根性」「気合」で仕事にあたる「昭和世代」の人間ですが、「働き方改革」など、令和の時代あった仕事の進め方にも留意していきます。よろしくお願いいたします。

### 河川港湾担当技監 佐々木 一彦 (ささき かずひこ)



今年度で県職員生活31年目となります。この間、空港13年、港湾9年と殆どが空と海の仕事で、特に空港では中型ジェット機対応から大型ジェット機対応の拡張整備まで一連のプロジェクトに携わることができました。この中で、一つ教えられたことがあります。「普通はコンクリートで構造物を造るけど、我々は土でそれを造り上げる。」という言葉です。これにより約300万㎡の盛土造成が土の構造物として完成しました。

出身地：盛岡市 (なでしこ幼稚園、青山小学校、厨川中学校)

趣味：ウォーキング (芝生の上も含む)、飲むこと

その他：みんなの足を引っ張らないよう、残り1年頑張ります。

### 道路都市担当技監 田中 隆司 (たなか りゅうじ)



震災直後から、復興まちづくり、復興祈念公園、復興に係る道路整備など、応援職員の手も借りながら進めてきました。10年目の今年度、いよいよ総仕上げです。これまでの支援に感謝しつつ、大きく変わる県土の姿を発信していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

出身地：盛岡市

趣味：ランニング。平穏な日々が早く戻ってくることを祈りつつ、混雑を避け自主トレ。

目標は3年ぶりのサブ4。あと7分・・・なんとかしたい。

好きな言葉：まず一步踏み出す。継続は力。走った距離は裏切らない。

今の心がけ：月2度の献血

【主要地方道重茂半島線】

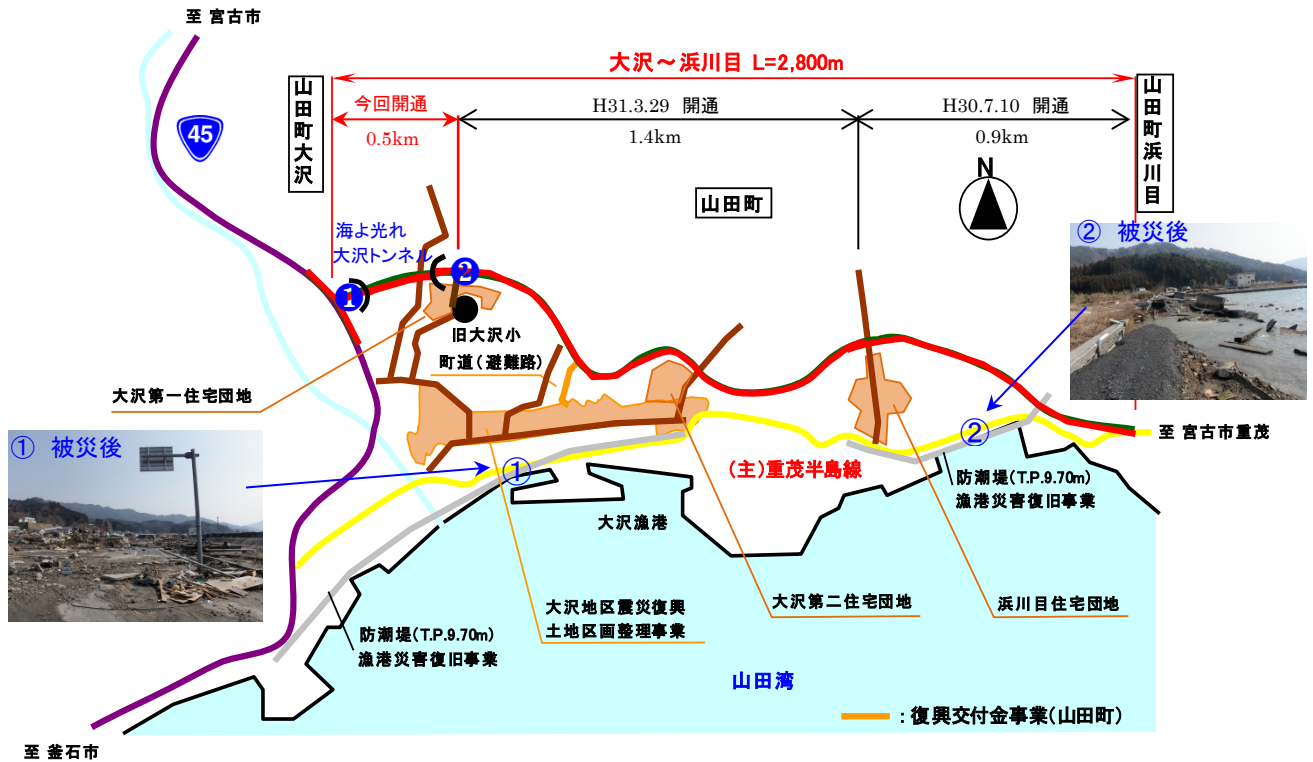
「大沢～浜川目」工区が全線開通しました！

沿岸広域振興局土木部宮古土木センター

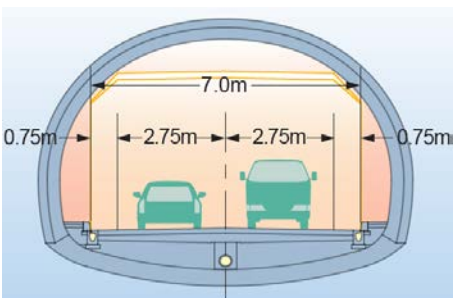
県がまちづくり連携道路に位置づけ整備を進めてきた、主要地方道重茂半島線「大沢～浜川目」工区が令和2年3月26日(木)13時に全線開通しました。(延長2.8kmのうち2.3kmは、平成30年度に供用済)

主要地方道重茂半島線は、重茂半島を周回する唯一の道路であり、県では当工区を三陸復興道路整備事業における復興関連道路に位置付け、東日本大震災津波で浸水した区域を回避し、山田町のまちづくりと一体となった整備を行いました。

今回の開通により、1車線区間や隘路区間が解消され、走行性や安全性が向上します。



計画延長	2,800m	
計画幅員	歩道設置区間	5.5(9.5)m
	歩道未設置区間	5.5(7.0)m
	トンネル部	5.5(7.0)m
道路の区分	第3種第4級	
設計速度	40km/h	



海よ光れ大沢トンネル 断面図



○ 主要地方道重茂半島線着工式（平成28年1月7日）



関係者による鍬入れ

「大沢～浜川目」工区を含めた（主）重茂半島線全7工区の着工式を行いました。

○ 海よ光れ大沢トンネル安全祈願祭からトンネル貫通まで



山田町長祝辞



大沢小児童の起動号令



平成28年7月11日に安全祈願祭が開催され、大沢小学校児童の起動号令により、掘削機械ドリルジャンボが起動し「海よ光れ大沢トンネル」の掘削に本格着手し、平成29年1月10日に貫通しました。（約6か月で貫通）

○ 開通（令和2年3月26日）



①



②

「大沢～浜川目」工区が開通し、重茂半島線全7工区中5工区が完成しました。残り2工区（里工区、石浜工区）も今年度中に完成供用予定です。

【主要地方道花巻北上線】

「島バイパス」が開通しました！

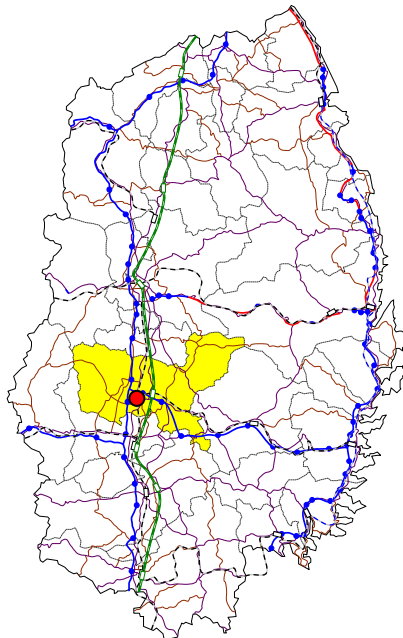
県南広域振興局土木部花巻土木センター

県が花巻市島地区で整備を進めてきた主要地方道花巻北上線島バイパス（L=2,980m）が令和2年3月26日（木）14時に開通しました。

今回の開通により、通過交通をバイパスへ誘導することで、現道の生活道路としての安全性が向上するとともに、物流の効率化や産業振興等が促進され、花巻北上地域の経済活動や交流、連携に大きく寄与することが期待されます。

当日は天候にも恵まれたなか、開通に先立ち地元の区民会が主催した『開通イベント<バイパスウォーキングとマラソン>』が開催されました。

イベントでは、地元の住民およそ140人が参加し、新しい道路を走ったり、歩いたり、新しく整備された道路を実感していただきながら、道路の完成を祝いました。



位置図



開通状況（R2.3.26）



開通状況 ※空から北上市方向を望む



供用前パトロール



地元保育園児もパトロールに飛び入り参加

**[ICT 施工\*の実施]**

島バイパス工区の工事では、工期の短縮、安全性の向上等を目指し、UAV 空中写真測量、ICT 土工、TLS 測量のほか岩手県で初となる ICT 舗装工（路盤工）に取り組みました。ICT 施工は、今後、幅広い工事での活用が期待されています。

※ ICT 施工とは、建設機械や測量機器にコンピュータや通信技術などを搭載し、設計の3次元化を図り、施工を一部自動化するものです。

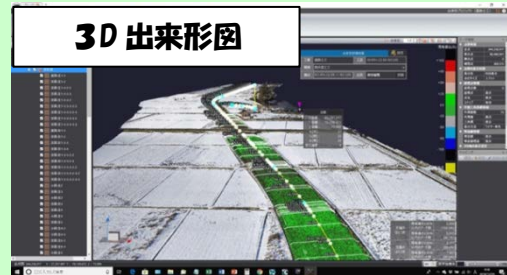
**UAV 空中写真測量**



**TLS 起工測量**



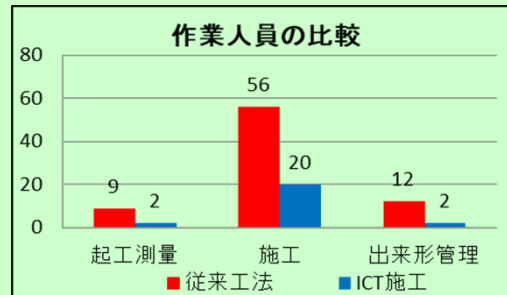
**3D 出来形図**



**ICT 舗装工(路盤工)**



**作業人員の比較**



計 53人・日短縮 (77人・日⇒24人・日)

# 岩手県内の復興道路の開通見通し

## ～今年度全線開通予定～

### 道路建設課

岩手県では、復興のリーディングプロジェクトとして国により復興道路（三陸沿岸道路、東北横断自動車道釜石秋田線、宮古盛岡横断道路）の整備が進められています。昨年度は三陸沿岸道路の県内の宮古以南が全て開通する等、県内の4区間が開通しました。

今後、夏頃・年内・年度末に続々と開通し、復興道路は今年度中の全線開通が予定されています。これにより、道路のストック効果がより広く全県に波及することが期待されます。

県としては引き続き、国や市町村、関係者の皆様と連携し復興道路の早期の全線開通に向けて全力で取り組んでいきます。

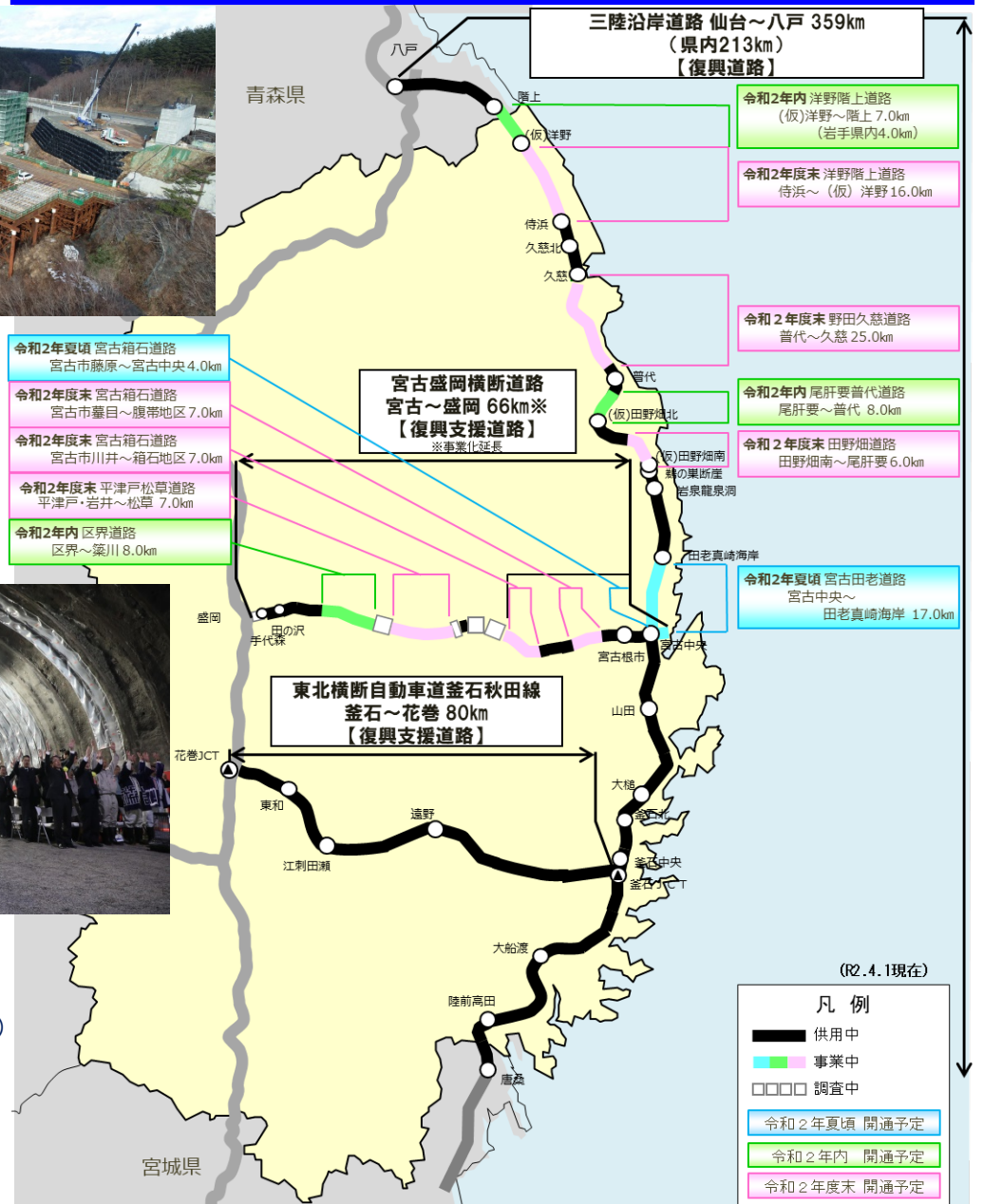
### 岩手県内の復興道路等の概要



▲三陸沿岸道路 田野畑道路  
令和2年度末開通予定  
【新思惟大橋（仮）施工状況】  
（写真提供：三陸国道事務所）



▲宮古盛岡横断道路 区界道路  
令和2年内開通予定  
【新区界トンネル（仮）貫通式】  
（写真提供：岩手河川国道事務所）





【主要地方道盛岡和賀線】

道の駅「はなまき西南」の登録証伝達式が開催されました！

県南広域振興局土木部花巻土木センター

主要地方道盛岡和賀線の花巻市太田・轟木地内で整備を進めている道の駅「はなまき西南」については、今秋の開駅に向けて、昨年度から県と花巻市が共同で事業を進めています。

令和2年3月13日には、県内で34番目の道の駅として登録され、同年4月20日には花巻市役所で道の駅登録証の伝達式が行われました。

道の駅「はなまき西南」は、産直施設等の整備を花巻市、県道への右折レーン設置や道路情報提供装置等の整備を県が行っており、地域住民や道路利用者に親しまれる施設となるように、引続き、花巻市と連携して事業を推進していきます。

- ◆施設概要
  - ・面積：8,219㎡
  - ・施設：駐車場49台、トイレ20器、物産館（直売所）、食堂、加工室（弁当・惣菜）、情報提供施設、ベビーコーナー
- ◆特徴
  - ・地元農産物を活用した弁当・惣菜を販売し地域活力の活性化、買い物難民の解消を図るとともに、地域居住高齢者への配食サービスを通じて高齢者への見守りを推進し「地域を支える拠点」となる地域振興施設を整備
  - ・花巻温泉等への優れたアクセス性を生かした「地域の玄関口」となる交通施設を整備



道の駅「はなまき西南」完成イメージ



# 住民団体等への草刈り業務委託制度の紹介

## 道路環境課

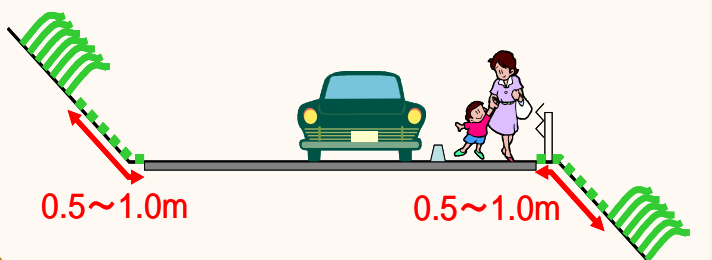
道路を安全・安心に利用するためには、草刈り、清掃、除雪、施設の修繕等、日常の維持管理が欠かせません。岩手県では、住民団体と協働で実施する道路脇の草刈り業務委託制度を県内各地で推進しています。昨年度は県全体で **352 団体に県管理道路の草刈りを実施していただきました!**

今年度も引き続き募集しますので、詳細が知りたい方は岩手県ホームページを確認するか、お近くの広域振興局土木部または土木センターへお問い合わせください。

住民のみなさん! 快適なみちづくりへの御協力をお願いします。

### 草刈りの実施範囲・時期

- 草刈りの範囲は道路の両脇 **0.5~1.0m** とし、面積は **1,000m<sup>2</sup>以上** を目安とします。
- 草刈りの実施区間は、住民団体が存在する地域、又は隣接地域の範囲内とし、最寄りの広域振興局土木部又は土木センターと協議のうえ決定します。
- おおむね3ヶ月間**の道路脇の草刈りによる道路美化に御協力ください。  
(6月~10月頃まで)



草刈実施範囲図



草刈の様子

### 参加要件等

- 応募する住民団体は、おおむね **20人以上**の団体を目安とします。
- 契約できる金額の上限は、100万円までとします。
- 道路脇の作業となるため、安全には最大限注意をお願いします。  
特に、交通誘導員の配置、保険加入(障害・賠償)は必須となります。なお、必要に応じてヘルメット、安全チョッキ等を貸し出します。



### 参加いただいた住民の声

- 草刈り後のゴミや空き缶のポイ捨てが少なくなりました。(花巻市)
- 地域の活性化、活動費用、協力と支え合いにも繋がりが助かっています。(北上市)
- 住地住民とのつながりができ、住みやすい仲間づくりができています。(奥州市)
- 協働草刈作業を含めて年3回の草刈を実施しており景観も良くなりました。(一関市)

## いわての川と海岸ボランティア活動支援制度のお知らせ

河川課

いわての川と海岸ボランティア活動等支援制度(以下「支援制度」という。)は、**県の管理する河川又は海岸**において、**地域住民が愛情を持ちボランティアで行う清掃等の環境美化活動を支援する制度**です。

環境美化に対する地域住民の意識高揚を図るとともに、ごみの散乱・不法投棄を防止し、**県民と行政が一体となった地域活動を推進**することを目的としています。

### 【参加資格】

支援制度に参加する者は、**10人以上の団体**とする。

### 【支援の内容】

- ① 軍手・ごみ袋などの提供
  - ② 報償金の支給
  - ③ 収集したごみ等の運搬にかかるレンタカー使用料の支援
  - ④ ボランティア活動保険等への加入費用の支援
  - ⑤ 参加団体及び活動区間等が記載された看板の製作
- ※①及び②については、どちらか一方とする。

### 【募集期間】

随時

### 【申し込み】

最寄りの広域振興局土木部及び土木センター

実施要領、申し込み様式については**岩手県のホームページ**をご覧ください。

<https://www.pref.iwate.jp/kendozukuri/kasensabou/kasen/1009922/1009925.html>



写真 ボランティア団体による活動

### 【草刈り業務委託及びボランティア活動支援制度問い合わせ先】

- 盛岡広域振興局土木部 電話:019-651-3111
- 盛岡広域振興局土木部岩手土木センター 電話:0195-62-2888
- 県南広域振興局土木部 電話:0197-22-2881
- 県南広域振興局土木部花巻土木センター 電話:0198-22-4971
- 県南広域振興局土木部北上土木センター 電話:0197-65-2738
- 県南広域振興局土木部遠野土木センター 電話:0198-62-9938
- 県南広域振興局土木部一関土木センター 電話:0191-26-1418
- 県南広域振興局土木部千厩土木センター 電話:0191-52-4971
- 沿岸広域振興局土木部 電話:0193-25-2708
- 沿岸広域振興局土木部宮古土木センター 電話:0193-64-2221
- 沿岸広域振興局土木部岩泉土木センター 電話:0194-22-3116
- 沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター 電話:0192-27-9919
- 県北広域振興局土木部 電話:0194-53-4990
- 県北広域振興局土木部二戸土木センター 電話:0195-23-9209

# 洪水から守ろうみんなの地域！

～5月は水防月間です～

## 河川課

私達の住んでいる日本は、雨量が多く、急こう配の河川が多い等の条件により、洪水が発生しやすい危険性を持っています。本県を含め各地域では、昔から生命や財産を水害から守るため治水対策が行われていますが、多くの費用と長い期間が必要とされるので、まだまだ水害を根絶するには至っておりません。

そこで、機敏な対応で水害を未然に防ぎ、また被害を少なくする「水防活動」が自分たちの地域を守るうえで重要な役割を担っています。

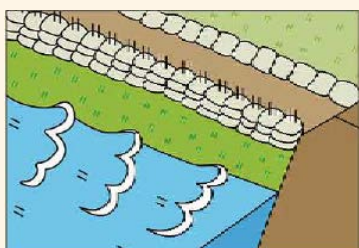
### 水防活動とは？

水防活動とは、水害の発生を警戒したり、土のうなどで水が溢れるのを防ぐ活動です。堤防などの能力には限界があり、施設では防ぎきれない大洪水が発生することもあるため、それを事前に防ぐための活動はとても重要なものとなっています。また、水防活動は水害発生時のみならず、事前に水防に必要な道具が不足していないか点検を行い、河川の巡視をして、水防活動時に危険が無いか確認を行うなど、日頃からの備えがとても重要です。



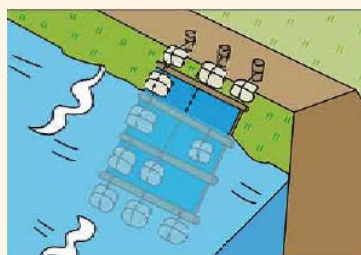
### 水防工法について

水害が発生しそうな場合、堤防の決壊を未然に防いだり、水害を最小限に食い止めることを目的に、状況に応じて下図に示すような最適な水防工法を実施します。



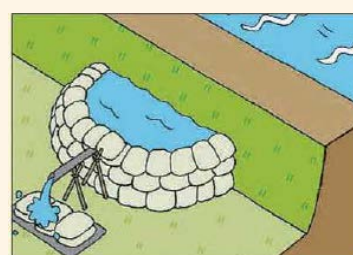
#### ■積み土のう工法

堤防の上に土のうを積み上げて、水が堤防を越えるのを防ぐ工法で、水防工法の基本ともいえる工法です。ひとつの土のうには、20～30kgの土や砂が詰められ、様々な工法にも使用されています。



#### ■シート張り工法

水の流れて堤防が削り取られたり、水が漏れたりしないように、防水シート（マット・畳等）を張って堤防を守ります。



#### ■月の輪工法

堤防の裏側に水が漏れだしたとき、半円形に土のうを積んで、川の水位と漏れた場所との水位の差を縮めて圧力を弱め、水漏れが広がるのを防ぎます。